

蔵持地域

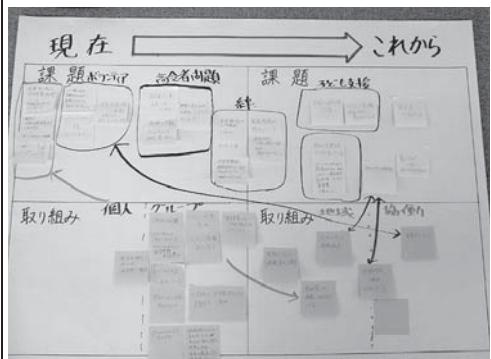
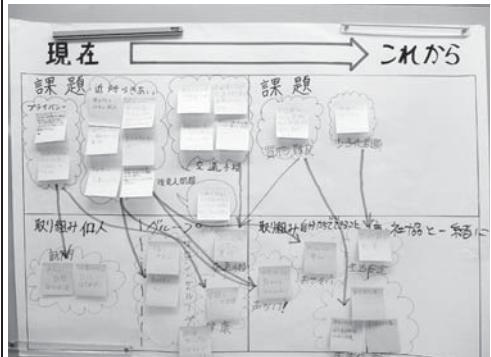
	【現在】	【これから】
課題	「高齢者の移動」 「住民の主体性」 「ボランティア等の人材不足」 「個人情報」 「地域の絆（地域内のコミュニケーション）」 「自治会等に加入しない世帯の孤立化」	「子ども支援」 「空家の増加」 「買物難民」 「少子化」 「地域内のコミュニケーション」
取組み	「登下校の見守り・声かけ」「学習支援」 「サロン」「友愛訪問」「緊急対策名簿作成」 「介護予防のための体操」「まちじゅう元気」 「コミュニティバス（みどり号）」	「有償ボランティア組織」「生活支援活動」 「コミュニティバスの路線拡大」 「住民参加型事業の取組み」

まとめ

住民同士の交流や情報共有が十分でないため、人とのつながりをつくることが重要であること、地域内でのつながりや助け合いも含め、誰かがやってくれるという考えではなく住民みんなが主体性をもって地域の課題に目を向け、地域内で役割分担をして取り組んでいけるように、参加型の取組み（市民センター祭りやウォークラリーのような事業）を地域として実施していくことが必要である、と自分たちの主体性を高めていくことの重要性について共有を図りました。

また、住民同士の助け合い活動が継続できるように、有償のボランティア活動の必要性や、現在の取組みとして自治会独自で緊急対策名簿を作成し緊急時に対応できるしくみをつくっていることについても話し合われました。

以上のような意見も踏まえ、地域としての課題等について情報共有するとともに、団地地区である緑が丘と農村地区である蔵持地区との交流と協働体制づくりの必要性についても話し合いました。



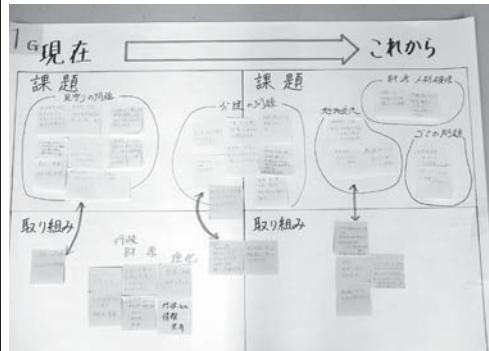
梅が丘地域

	【現在】		【これから】	
課題	「高齢者の見守り」「地域内及び行政からの情報」「交通」	「介護」「環境」	「地域内交流」「地域活動への財源・人材確保」	「ゴミ処理」
取組み	「見守り活動」「グラウンドゴルフ」	「サロン」	「生活支援活動」「情報共有」「交流の場づくり」	

まとめ

高齢者が増えてくるなかで、住民同士の関係性が希薄で名前と顔が一致しないということもあり、情報が地域で共有できていないこと、区長と民生委員・児童委員が連携して高齢者世帯を一緒に回っている地区もあるがそうでない地区もあること、地域として多様な課題を解決していくなかで、住民同士の交流や情報共有をすることや、気軽に立ち寄れる場をつくることが必要であることなどを共有しました。特に、大勢の中へ入ることが苦手な方等が気軽に寄れる場や、個別対応に近い取組みの必要性についても積極的な意見が出ていました。

高齢者等の生活に関する多様なニーズに地域として解決していく取組みとして、地域づくり委員会では地域ささえあい活動の組織化に向けた準備が進められており、現在住民アンケートの集約作業が行われています。この取組みもあり、これから地域内でのささえあい活動を地域全体で取り組んでいくことについても共有を図りました。



薦原地域

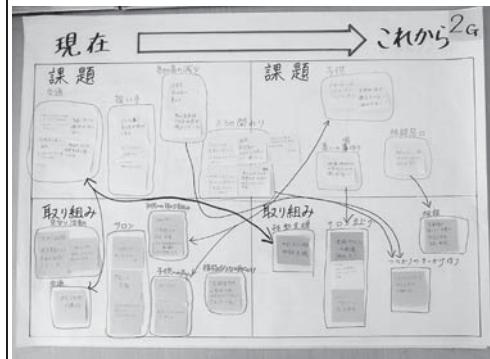
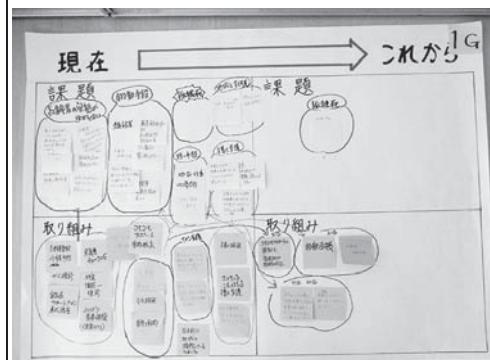
	【現在】	【これから】
課題	「高齢者の実態が分からぬ」 「移動手段」 「担い手不足」 「人との関わり」 「介護」 「地域医療」 「子育て支援」	「集いの場づくり」 「子ども」 「配食ボランティア」 「安否確認」 「孤独死」
取組み	「見守り・声かけ」 「子ども支援」 「コミュニティバス」 「サロン」 「コモコモサポート」	「配食活動回数増」 「出張型カフェ」 「コミュニティバスの充実」 「移動販売」 「つながりのきっかけづくり」

まとめ

山間部という環境による交通面での課題、医療機関が地域内に無いため高齢者等の地域医療に関する課題について確認しました。環境面でのこれからの取組みとして、コミュニティバス「コモコモ号」の充実（きめ細かな運行ルート）や、他地域で運行しているコミュニティバスとの連携による移動手段の拡充などが必要であることを共有しました。

また、現在地域内の見守り活動の一つとして月1回実施している配食ボランティア「こもちゃん」の活動回数を増やすなど、具体的な地域内の見守り活動の充実について共有しました。

地域の中心である市民センターでは、月1回のコミュニティカフェや高齢者学級等の行事やイベントを開催していますが、移動手段の問題から参加者も限られることより、各地区へ出向く出張型のカフェやサロン（高齢・子育て・世代間交流）等を行うことで、地域内での居場所づくりや見守り、交流のきっかけに取り組めればとの意見が出ていました。



美旗地域

	【現在】	【これから】
課題	「区長と民生委員・児童委員の連携」 「民生委員・児童委員の役割が多い」 「情報の壁」「情報発信」「見守り・声かけ」 「つながり」「サロン」	「活動者の高齢化（配食ボランティア）」 「活動に伴う事故等の補償」
取組み	「情報共有のための見守りリスト」 「コミュニティスクールの検討」 「勉強会」	「情報の壁」「見守り声かけ」 「民生委員・児童委員の補助機関の位置づけ」 「配食活動の新たな展開」

まとめ

支援が必要な人へ必要な情報が届いていないために、悲惨な状態になってから対応することも地域内で発生している状況があるため、自治会より小さい単位でのつながりづくりや必要に応じた勉強会等を開催し、地域内での情報共有を図るとともに、見守りを行っていければとの意見が出てました。

見守り活動として長年地域で取り組んでいる配食ボランティア活動者の高齢化によって、活動継続への対策が必要であることも課題として共有しました。

地域における民生委員・児童委員の活動が広範多岐にわたるため、地域として補助組織を立ち上げていますが、公的な位置づけの民生委員・児童委員と地域独自の任意事業であるため「情報の壁」によりうまく機能できていない状況にあることから、名張市の条例等によって民生委員・児童委員の補助機関として位置づけることで、民生委員・児童委員の負担軽減や地域での福祉力の向上につながっていくことが考えられるとの意見がありました。このことは、地域だけでなく行政等関係機関との協働によってからの地域の支援体制強化につながることを共有しました。

また、区長や民生委員・児童委員だけでなくそれぞれの地域の機関内における申し合わせを行い、どのような情報をどのように収集し具体的にどのような場面で誰がどのように取り扱うかを明確にしていくことで整理できるのではないか、と具体的な対応策についても協議することができました。



※美旗市民センターHP写真より

桔梗が丘地域

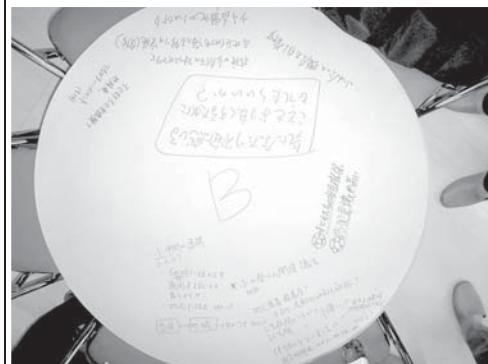
課題	子どもたちの未来のために気になったり不安に感じること
	【親の地域内での関係性】地域とのつながり希薄、自治会未加入、子ども会と自治会の連携
	【親の子どもへの関心】無関心、共働きや多忙で子どもと向き合えない、敏感すぎる
	【子どもに対する不安】下校後の子ども、学童に通えない子ども、地域行事では子どもが客
これから の取組み	【その他】小中学校の統廃合、子どもがいなため関心薄い、子どもが地元に戻ってこない
	気になったり不安に感じることをよりよくするためにどうしたらいいか
	【親に対する取組み】地域行事等を知ってもらう、高齢者と子ども・親のふれあい、PTA改革
	【子どもに対する取組み】農楽園での野菜づくりとこども食堂、昔遊び体験、居場所づくり
	【地域での取組み】親子参加行事の増加、空家活用、子どもの安全確保、各地区のお祭り、地域活動を発表する場、遊ぶ場所の確保、ママだけでなくパパも地域で交流、親の教育

まとめ

「みえのみらいづくり塾」事業のワークショップ研修と併せて行いました。まずは、現在地域が主体的に実施している「子どもたちと地域の絆づくり事業」について共有し、グループワークでは「子どもたちの未来のために」現在の課題を共有するとともに、子どもの未来を地域全体でサポートするための積極的な話し合いが行われました。

地域行事に親子で参加しても親が積極的でなく、子どもと地域の方との交流だけになっているということもあり、「親が積極的に参加するための工夫も必要」という意見や「高齢者と子ども・親がふれあう場を持つ」といった親の教育について、多くのグループで話し合われました。

今回、地域の3小学校よりPTA役員が参加したなかでは、「農楽園で子どもと一緒に野菜づくり」を是非実現させたい、今回だけで終わるのではなく今回をきっかけに地域との関係性を持っていきたいと地域内の新たな関係づくりのきっかけになっていました。



比奈知地域

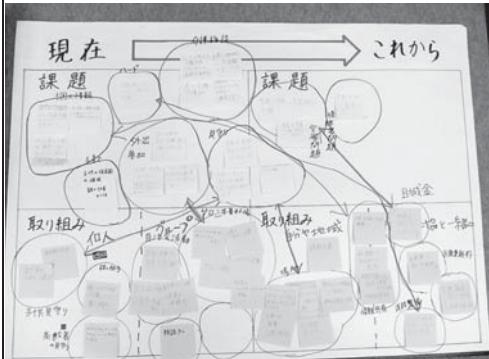
	【現在】	【これから】
課題	「高齢者の見守り」 「子どもの居場所」 「自治会や地域内のつながり」 「生活における課題」 「農業の担い手不足」	「地域内の見守り」 「移動手段」 「空地・空家の増加」 「農業の後継者不足」
取組み	「声かけ、見守り」 「話し相手」 「地域内による世代間交流」 「サロン」 「公園の整備」 「男の料理教室」 「絵本読み聞かせボランティア」	「子どもたちが郷土に触れる活動」 「空地の再活用」 「ゴミ出し支援」 「農村と新興地の交流企画」 「農福連携」 「コミュニティバス」 「移動式買物支援」

まとめ

歴史・文化の深い農村地区と新興住宅団地が連携して地域活動に取り組んでおり、少子高齢化が進行している中、若年層による役員参加が増えている傾向にあります。高齢者へ定期的な訪問やサロン参加の呼びかけに取り組む一方、守秘義務を理由に個人情報の開示がなく、地域の人が突然いなくなっていても分からぬいため、見守り活動の制限がうまれていること、加えて40～50歳代の引きこもりや子どもの不登校の長期化など、見守り対象者の範囲が広がっていることから、地域内の見守りのあり方について情報共有を図りました。

次に生活における課題としては、高齢者がゴミ出しに対応できない、交通手段がないので買物やサロンへ参加できないなどの意見があり、コミュニティバスや移動式スーパーによる買物支援の開発など、地域によるささえあい活動の必要性についても話し合われました。

また、子どもの居場所については、ワンディシェフによる週1回程度の食事提供の場づくりや、子どもたちが郷土や自然に触れる遊びなどの企画案があがりました。



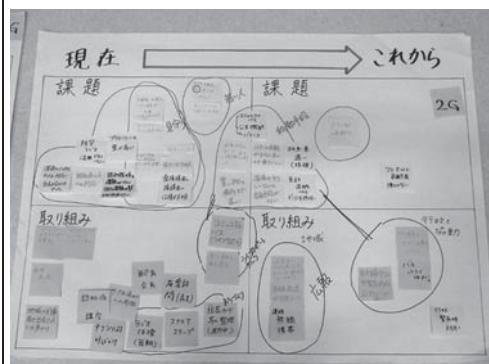
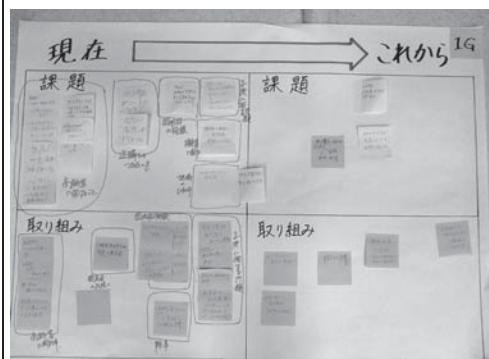
すずらん台地域

	【現在】	【これから】
課題	「高齢者の見守り」「認知症の見守り」 「子どもの見守り」「近隣との付き合い方」 「ボランティア・担い手不足」「移動手段」	「担い手育成・若い人材の確保」 「現在の支援活動に対する継続性」 「自治会活動」「インフラ整備」
取組み	「認知症に関する講座開催」「ラジオ体操」「環境整備活動」「住居カードの整備」「配食・会食」「サロン」「ライフサポートによる生活・移動支援」「ノルディックウォーキング」「小学校校門前でのあいさつ運動」	「福祉教育」「地域世代間交流の場づくり」「男性が参加しやすい行事の企画・開催」「課題白書の作成」「広報手段の開発」「敬老会のあり方」「緊急対応型タクシーの開発」

まとめ

「見守り」を地域共通のキーワードとして、さまざまな課題に対して地域全体で解決に向けて取り組まれています。配食・会食、サロン、ラジオ体操などの定期的な見守りに加え、認知症や子育てなどテーマを絞った講演会の実施を通じて地域住民に広く情報発信を行っていたり、有償ボランティア活動団体を通じて日常生活や移動手段の支援を行っていたり、柔軟に対応されています。また、必要な範囲の情報共有化を目的とした住居カードの整備に取り組むことにより、暮らしやすいまちづくりを目指している現状について、改めて共有を図りました。

ボランティア活動者がこれから高齢化する一方で、次世代の方の加入が少なく、また地域だけで人材育成ができるのか不安がある、といった意見もありました。現在の支援活動を継続するために担い手育成・若い人材の確保に取り組んでいくことが必要であると話し合われました。



国津地域

	【現在】	【これから】
課題	「空家対策」「移動手段」「高齢者の日常生活支援」「安否確認」	「地域づくりの後継者不足」「高齢者の働く場がない」「人口の減少・若者の減少」
取組み	「サロン」「安否確認」「行事参加の声かけ」	「移動販売車」「移動手段の拡充」「地域の居場所づくり」「人口増加のしくみづくり」

まとめ

国津地域には小学校はなく保育所もなくなるため、若者が街へ移住してしまい、結果的にひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、日中独居の高齢者が増えています。これらの世帯では、日常生活の中でちょっとした困りごとが増えている現状をみんなで共有しました。なかでも、買物や病院受診の際の移動手段については、コミュニティバスの充実やより決め細やかな移動手段の確保の必要性について、国津地区と長瀬地区の双方で共有しました。

また、野菜の栽培をしている世帯が多いのでその販売をするしくみや、安い賃金でよいので高齢者が働ける場をつくりたい、カフェ等の集いの場が欲しい、といった居場所づくりに対する積極的な意見が出ており、「来年ワイナリーができるので、そこを有効利用して働く場や集う場にできたらいいな」という話も出ていました。

さらに、「役員になってくれる方がいないという課題はあるけれど、老人クラブをもう一度つくれないか」といったクラブ活動の必要性についても共有しました。

